

えんちょう通信

No.112

令和5年11月27日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤一男

「ぼく、大きくなったら消防士になるんだ。」



先週の11月22日(水)は、年少組と年長組の子どもたちみんなで福島消防署清水分署を見学に行きました。朝から気温も高く、空は真っ青に晴れて、風もなかったので、消防署まで気持ちよく歩くことができました。

消防署に着くと、署長さんはじめ消防士の皆さんが待っていてくださいました。署長さんにご挨拶をして、さっそく見学をさせていただきました。

最初に消防士さんの仕事について、ビデオを見せてもらいながら、教えていただきました。すると、その話を聞いている最中に緊急の通報が入り、消防士さんたちが急いで出動することになりました。子どもたちもその緊張感を感じたのでしょうか、消防士さんたちの出動の様子を黙って見ていました。通報を受けてから福島市の街であれば、3分から5分くらいで到着できると署長さんが教えてくださいました。署員のみなさんがみんな出動してしまったので、署長さんが自ら子どもたちを案内し、説明を教えてくださいました。子どもたちは子ども用に作られた消防服を着せてもらい、ヘルメットもかぶせてもらって、もう気分はすっかり消防士さんです。そして子どもたちが楽しみにしていた消防車を見せてもらいました。間近で見るといろいろな道具やメーターがたくさんついていて、子どもたちは大喜びです。

「消防車には、何人で乗るんですか？」と質問すると、

「消防車には、4人から5人で乗ります。前の席には運転手さん、その隣には隊長さんが乗ります。後ろにはホースを持つ人や消火をする人が乗ります。」と署長さんが教えてくださいました。

見学しながら、署長さんが「朝、消防署に来たら、次の日の朝まで家には帰れないんだよ。だから忘れ物はできないんだよ。」とお話してくださいました。子どもたちも消防士さんの仕事の大変さを感じたのではないのでしょうか。

最後に、署長さんから鉛筆と消しゴムと定規のセットと消防署のカードをお土産にいただきました。

帰りみち、男の子が「ぼく、大きくなったら消防士になるんだ。」と言っていました。

人の命を守る仕事をしている消防士さんの姿に触れることができ本当によかったなと思いました。

子どもたちは、地域のみなさまに大事にされて、思いやりのある優しい子に育っています。